

# 広い視野を持った生徒の育成とN I E

長野県岡谷市立岡谷西部中学校教諭 恩 田 朋 彦

## 1. 実践の概要、研究テーマなど

本校は、97年度からN I E実践校の指定をいただいたが、本校の研究テーマである『広い視野を持った生徒の育成を目指して』の具体的方策の一つとして以前から社会科や国語科を中心にしてN I Eの活動に関心を寄せてきた。本校生徒、と言うより最近の中学生の目（意識）は、概して『外』より『内』へ向きがちである。それは『集団』より『個』（または極めて狭い範囲の集団）、『社会的規範』より『個の嗜好』を志向する姿などに顕著に出てきていると思われる。これらは、社会全体の流れとして全面的に否定はできないが、一人一人の生徒の健全な成長を願う時、我々教師としてはもう一度生徒の目（意識）を『内』から『外』へと向けてやらなくてはならないと考えた。その中で生徒は新たな価値観に気付き、それに基づいた行動ができるようになるのである。一つの例をあげると、97年1月31日の信濃毎日新聞の『斜面』に下記の記事が掲載された。

これは本校の3年生のものであるが、この生徒は3年間にわたって新聞のコラムを切り抜き、ノートにその要点をまとめたり、感想を書くといった活動を続けてきた。そして、卒業を間近に控えて新聞社に投稿したのである。この生徒は学校内ではリーダー的な存在でもなく、どちらかと言えばあまり目立たない生徒であった。まさに『内』へ、そして『個』へと目を向けている生徒であると考えていたが、3年間の新聞を用いた地道な活動の中で、この生徒の『外』へ、『社会』へ向けての目は確実に醸成されていたのである。

このように考えた時、N I E実践校の指定をいただいたことは本校の研究を更に深めていく良い機会ととらえ、従来の活動の継承だけでなく、特に指定1年目ということもあり、間口を広くして研究を進めることにした。ただし、N I Eは本校の研究テーマに迫る一つの研究分野であり、N I E以外の面からもアプローチを続けること。また長期間にわたって継続する必要があることからして、生徒に

### 斜面

幾つになっても  
褒められるのは  
うれしい。しか  
られるのは悲し  
い。本欄にも読  
者から「毎朝眞  
つ先、楽しみに読む」と  
いった便りが届く。そんな  
折には気分が舞い上がる。  
逆に苦言や抗議も頂  
く。自信喪失の胸苦しさ  
がずっしり重い。◆人懐  
中34歳です。出  
便物の中に、机の上の郵  
出しで始まるはがきがあ  
った。岡谷市の中学三年  
生Y君からである。人懐  
は中1から三年間、「斜  
面」の要約をしてきまし  
た。ノートも六冊以上にな  
りました。自然には  
おが緩んでくるのを感じ  
ながら、丁寧な文字を追  
った。◆人懐面には詩が多  
くて難しかったけど、三  
年間やつて読解力や漢字  
力がつきました。一番苦  
手だった国語が、三年に  
なつて「4」をもらえま  
した。何度も「4」を  
ボールペンでなぞつたら  
しく、くつきりと太く目  
立つ。(二)まで読み進ん

で、まずはY君のために  
うれしかった。そして本  
欄が少しでも役立つたこ  
とに感謝した。◆毎日切り  
抜いてはノートに要約を  
まとめてくれる。こん  
なにありがたいことはない。  
思わずにつくりした  
のは、次の二行を目にし  
た時だった。人懐許し  
てもらえたら、図々しい  
けど三年間の思い出に僕  
の様な人がいると一行で  
も書いてもらえませんか  
しょうか。三年間が  
ばつたでしよう。をくだ  
さい。◆そこでY君、ま  
だ卒業までには間がある  
けれども、心を込めて贈  
らせてもらいます。三年  
間がんばつてくれました  
た。賞です。たぶん、先  
生や家族の温かい励まし  
があつたのだろ。Y君同  
様の中学生、高校生らの  
奮闘をたたえながら、あ  
うため「ありがとう」

事を見つけ、その記事についての自分の  
意見や感想を書く。

#### (4) 生徒昇降口への新聞の掲示

生徒昇降口の掲示板に、新聞の一面・  
地元新聞の本校に関係する記事・中学生  
に関わる記事等を掲示し、社会の動き  
(新聞)に対する関心を呼び起こす。

## 2. 新聞の置き場所と整理の方法

図書館に新聞コーナーを設置し、生徒会の図書委員の生徒が3紙を管理した。残りの新聞は職員室の所定の場所に置き、主に職員が必要に応じて新聞の記事を利用したり、また職員が普段あまり接しない新聞に親しめるようにした。

### 3. 実践の内容

①N I Eレポート

N i E レポート

( ) 年 ( ) 部 氏名 ( 菅 野 純 )

◆新聞名 (朝日新聞)  
◆日付 (1997) 年 (10) 月 (2) 日 (1) 曜日  
◆新聞の切り抜きをほる場所

[illegible]

◇上の記事を読んだ感想や自分の意見、疑問などを書いてください。

11月14日から21日までです。同じことをやるのは、  
いいんじゃないの？と、思いました。東京から、ノ  
電車が、夕方に、いいとこへ来た。たけ  
バスや電車を、留めて、いいのて、まて、思  
う。

### ①読解力を伸ばすための取り組み

第二段階 記事に対する自分の意見や感想を書く。

第三段階 指定された記事（決まったコラムなど）ではなく、自分で気になる記

初めは、毎時間一人の生徒が5分の持ち時間の中で自分の気になった記事について発表するという形態で行った。しかし、事前の指導が十分にできないために発表の内容の深まりが見られなかった。そこで、2週間に1回のレポート提出に切り替えた。この結果、生徒はある程度記事について調べる時間ができ、これは…と思うレポートを掲示することによって、他の生徒の感じ方・考え方をじっくりと見る（読む）機会をつくることができた。

[生徒の声]

- ・はじめは面倒だったけど、調べていくうちにいろいろ知らないことが分かっておもしろくなってきた。（3年女子）
- ・テレビのニュースを見ていると、自分が調べたことをやっているとどろいた。

（1年男子）

- ・わからないことがあったので、親にも聞いてまとめることができた。つとめている会社のことも話してくれたのでよくわかった。（3年男子）

## ②世界地理導入における新聞の活用

1年に入学してすぐに学習するのが世界地理である。中学1年くらいになると、一人一人の持っている知識の量には驚くほどの差がある。そこで、長い期間ではないが、毎時間新聞の一面のコピーを配布し、その中から外国の国名や都市名などを見つけだし、更に地図帳で場所を確認する学習を取り入れた。

例えば、98年5月19日の信濃毎日新聞一面からは次の地名がつけられた。

インドネシア・ジャカルタ・ロンドン  
シンガポール・カンボジア・マレーシア  
クアラルンプール・バーミンガム  
パキスタン・光州

この学習のメリットとしては、次の点が考えられる。

ア. 気がつかないうちにその日のトップニュースに触れることができる。

イ. 全く知らない細かい地名が出てきた時には地図帳の索引から調べなくてはならないため、自然に索引の利用ができるようになる。

ウ. 授業で扱えない国名・地名も多数でてくるので、雑学的な知識が身につく。

[生徒の声]

- ・ともだちと競争でさがしたので、とてもおもしろかった。
- ・世界中のたくさんの場所がわかってよかった。
- ・知らないところが多かったが、地図帳でさがしたらだいたいみつかってよかった。

## ③古い新聞を使っての歴史の授業

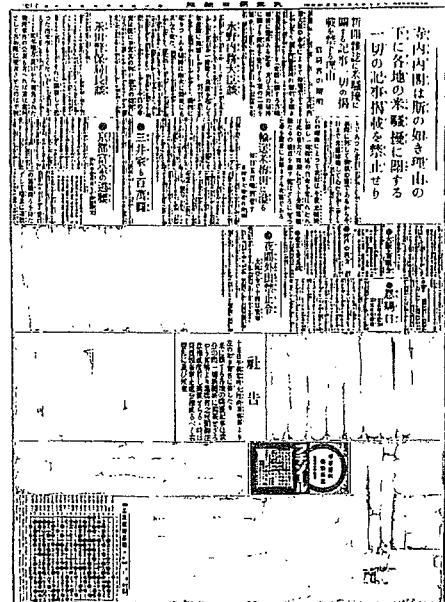
古い新聞といっても数年前というものではなく、例をあげると次のような新聞である。

1864年の四国艦隊下関砲撃

[ロンドンニュース]

1894年の日清戦争 [都新聞号外]

1918年の米騒動 [朝日新聞]



1923年の関東大震災〔朝日新聞〕

1936年の二・二六事件〔東京日日新聞〕

1941年の太平洋戦争開戦〔日・中・米  
英・仏・独・ソ・伊の新聞〕

これらの新聞からは、単にその事件が起こったという事実だけでなく、ある情報が流れることを危惧した当局の意図によって記事が故意に抜かされている部分があることに注目したり、その事件をその時代はどのように扱ったを知ったり、更には当時の広告に目を向けることによって、違う角度からその時代を見ることができる。

また、太平洋戦争開戦の記事のように、日本だけでなく戦争にかかわった8つの国々の新聞を読むことによって、この戦争に対する各国の立場を理解する助けともなる。

- ・右から読むようになっていたり、むずかしい漢字があって読みにくかった。
- ・百年以上も前のイギリスの新聞に日本のことがでていて驚いた。
- ・二・二六事件の新聞があって五・一五事件の新聞がない理由がわかってよかった。
- ・新聞は大きな事件は全部のせるのかと思ったけど、時代によってはそうでもないことがわかった。
- ・記事が消されている新聞があったけど、なぜ消されているかを考えることにより世の中の動きがなんとなくわかったような気がした。

#### ④タイムリーな記事の活用

地理や公民の場合に比べると、歴史の場合には新聞をタイムリーに使うことは難しいが、縄文時代や弥生時代に関連する記事はかなりの頻度で記事になっている。また注意して見ていると、次のようなケースも珍しくはない。

今年の例になるが、2年生で江戸時代の化政文化の学習をした直後に『伊能忠敬の日本図の中の本州中部が国内で初めて発見された』という記事が出た。

このような記事を毎年蓄積しておき、授業の中で活用している。

#### ⑤『株式学習ゲーム』への参加

これは証券広報センターが一昨年からはじめている事業である。これは、春と秋にそれぞれ3か月間くらいずつの期間を設定し、本当のお金を使わないということ以外はすべて実際の株式売買と同じ方法で自分の資金1000万円を使って株式の売買をするものである。

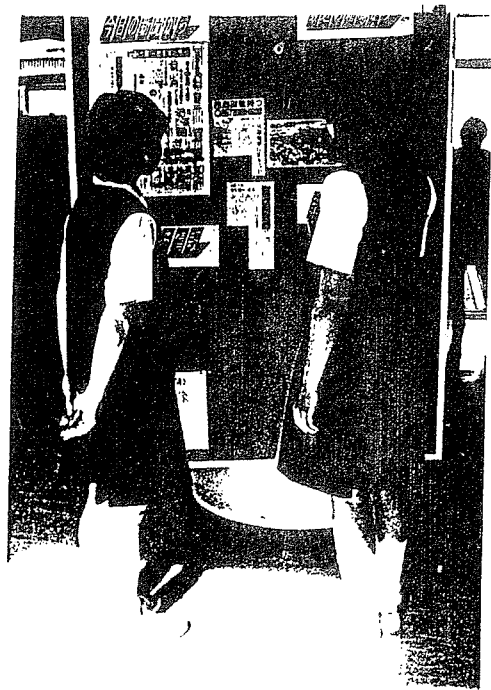
その際、新聞の株式欄を使うのであるが、ある程度学習が深まると新聞などから得られる情報をもとにして、円安なら石油や鉄鋼関係の業種は…というように、あてずっぽではない、ある程度の根拠を持った株の売買ができるようになる。

#### 〔生徒の声〕

- ・最初は株ってなんだかわからなかったけど、社会の動きの中で値段が上がったり下がったりすることがわかった。
- ・200万円以上も損をした。株はむずかしい。
- ・授業で勉強した円高や円安が株の値段にも影響していることがわかった。アメリカやヨーロッパのできごとが日本の株にも関係していてすごいと思った。

#### ⑥昇降口への新聞の掲示

毎朝、生徒が登校する前に6～7紙の新聞にざっと目を通し、新聞の一面の縮小コピー、各紙の中から生徒の興味を湧きそうな記事、生徒に考えてもらいたい記事、本校生徒が載っている記事等を選んでコピーしたものを掲



示している。毎日でなくても、フッと目にとまった記事を読んでももらえれば程度に考えている。この掲示板は『社会の窓』と命名し本校NIEの出発点として始めたものである。社会に目を向けるという趣旨から、新聞だけでなく、週刊誌等からも生徒に考えてもらいたい衝撃的な写真や記事があれば掲示している。

#### 4. 実践の感想と今後の課題

NIEの目指す『情報活用能力の育成』と、本校の研究テーマである『広い視野を持った生徒の育成』とは基本的な考え方は同じであり、もっと端的に言うなら共に目指すものは『生きる力』の育成である。今までテレビ欄やスポーツ欄しか見なかった生徒が、NIEの実践を続ける中で、時々ではあっても一面の記事に目を向けるようになったり、身近な地域にどんなニュースがあるのか、どんな投書があるのか、世界はどのように動いているのか、それぞれの紙面を見るようになった。

これらの行動は、その生徒にとってみれば、まさに『生きる力』なのである。この力は、すぐには形になって何かの成果として現れるものではないかもしれないが、将来社会の中に出て行く一人一人の生徒にとっては、今から育てていかななくてはならない力であると確信している。

また、生徒の感想を聞いてみても、新たな発見による喜びを経験する生徒もあり、NIEの学習は全般的に好評であった。ただ新聞を読ませれば良いというものではないので、事前事後の指導、そして何よりも教師自身が新聞を読まなければならないが、そこには生徒と同様な新たな発見も多々あるのである。

本年度は、基本的には昨年度の活動を継承していくが、本校としては初めて選択社会科を実施するので、『広い視野を持った生徒の育成』という研究テーマのもとで、NIEも含めてもう一步踏み込んだ研究を進めてみたいと思っている。